広島県コンクリート診断士会

坂本氏が「ジオクリート」など解説

第52回定例会開く

広島県コンクリート診断士会（十河茂幸会長）による第52回定例会が15日、広島市中区で開かれ、広島工業大学工学部の坂本英輔教授が特別講演「脱炭素に向けた取り組み」を披露。賛助会員企業による技術紹介もあった。

定例会は、会員の技術向上や情報交換などを目的に2011年の設立以来、隔月で継続開催しているもの。会員・賛助会員ら約30人が参加した会の冒頭で十河会長（近未来コンクリート研究会）は、「コンクリートは鉄に次いで二酸化炭素の排出量が多いため、今回の特別講演は、坂本教授に脱炭素に向けた取り組みについての解説をお願いした。貴重な機会を皆様の技術研鑽に役立ててほしい」と呼びかけた。

特別講演の中で坂本教授は、2050年のカーボンニュートラル実現に向けた世界的な動きや日本国内のコンクリート関連業界の脱炭素に向けた取り組みを詳しく紹介。さらに、セメントを使わないため、二酸化炭素排出量を大幅に低減できるジオクリートについての研究成果を映像を用いながら詳細に説明し、参加者からは多くの質疑応答が寄せられた。

十河会長

また、賛助会員企業の技術紹介では、非開削推進・非破壊探査事業などを手掛けるアイレック技建の竹下竜之介氏が登壇。非破壊で地中埋設部を探査する技術やコンクリートの配筋及びかぶり厚さが調査できる技術などを解説し、近年のコンクリート構造物の点検に使える技術なども幅広く提案した。

次回の定例会は4月12日に開催予定。今回同様、特別講演に加えて賛助会員の技術紹介などを企画している。

中建日報社 ホームページ
https://chuken-news.com/